

患者様へ

自家多血小板血漿(Platelet-rich plasma: PRP)を用いた筋肉、腱、靭帯、筋膜の
損傷及び慢性炎症の治療(関節腔外に限る)についてのご説明

【再生医療等提供機関】

名称: 富士整形外科病院

住所: 静岡県富士市錦町1丁目4番23号

電話: 0545-51-3751

【管理者】

渡邊英一郎

【実施責任者】

渡邊英一郎

【再生医療等を行う医師および細胞を採取する医師】

渡邊英一郎

高森尉之

山崎修司

平野圭司

木島文博

河野開紀

1. はじめに

この説明文書は、当院で実施する再生医療「再生医療の名称:自家多血小板血漿 (Platelet-rich plasma:PRP)を用いた筋肉、腱、靭帯、筋膜の損傷及び慢性炎症の治療(関節腔外に限る)」(以下、本治療)の内容を説明するものです。

この文書をお読みになり、説明をお聞きになってから十分に理解していただいた上で、本治療をお受けになるかを患者様のご意思でご判断ください。

なお、本治療は、患者様ご自身から採取した血液を用いるものであり、細胞提供者及び再生医療を受ける者は同一ですので、説明書をひとつにまとめさせていただきました。また、治療を受けることに同意された後でも、採血を始めるまでは、いつでも同意を取り下げることができます。治療をお断りになっても、患者様が不利な扱いを受けたりすることは一切ありません。治療を受けることに同意いただける場合は、この説明書の最後にある同意書に署名し、日付を記入して担当医にお渡しください。

本治療について、わからないことや心配なことがありましたら、遠慮なく担当医師や相談窓口におたずねください。

2. 本治療法の概要

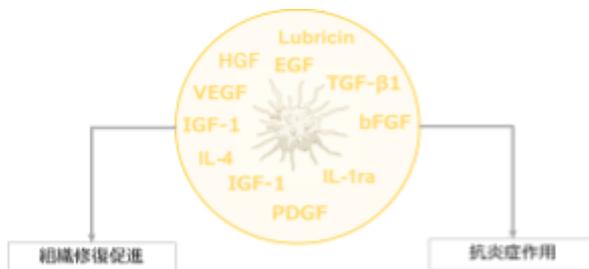
血液の中には、「血小板」と呼ばれる血液を固まらせる役目をする細胞があり、血小板には成長因子(細胞の増殖に関わるタンパク質)が多数含まれていることが知られています。この成長因子は、組織修復のプロセスに関与していることが知られています。

多血小板血漿(Platelet-rich Plasma:PRP)とは、患者様ご自身の血液を、遠心力を利用した分離装置により、赤血球や一部の白血球から分離された血小板が濃縮された層のことを言い、その安全性の高さから、傷ついた組織の修復に広く利用されてきました。

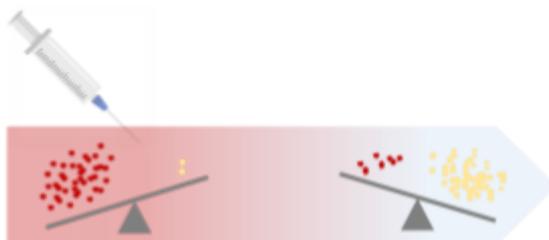
自家PRPを用いた治療とは、患者様ご自身の血液を、高速回転による遠心力を利用した分離装置(遠心分離器)にかけ、血液の成分(赤血球・白血球・血漿など)を分離することによって、自家多血小板血漿(Platelet-rich Plasma:PRP)を調製し、自家PRPだけを分離し濃縮して患部の治療に利用する方法です。

自家PRPを直接、患部に注入することによって、自家PRPに含まれる成長因子により、筋肉、腱、靭帯、筋膜の損傷の修復や、慢性的な炎症による疼痛の改善や組織修復の促進を図ることを目的としています。

(PRPのイメージ)



血小板が活性化した際に放出される成長因子等の複合的な作用により、抗炎症による組織分解の抑制、組織修復促進を行う。



関節内のタンパク質のアンバランスを緩和し、慢性的な炎症やそれによって発生する疼痛組織分解を抑制する。

3. 本治療の対象者

本治療の対象となるのは、以下の基準を満たす患者様です。

- 1) 通院可能な方
- 2) 本治療について文書による同意をされた患者様(未成年の場合は代諾者の同意が必要です)
- 3) 問診により全身状態が良好と判定された者

また、次の各項目に1つでも当てはまる場合は治療をうけていただくことができません。

- 1) 抗凝固剤を使用中の方
- 2) 血小板減少症等出血性素因がある方
- 3) 貧血の方
- 4) 重篤な感染を有している方
- 5) 易感染性宿主(糖尿病・免疫不全・慢性腎不全・肝硬変の方)

4. 本治療の流れ

本治療は、①末梢血の採血、②PRP作製、③PRP注射の段階で行われ、経過観察として④、⑤、⑥の診察が行われます。また、追加投与による改善が見込まれると判断される場合は患者の希望を確認したうえで追加投与を行います。追加投与の判断基準、投与間隔については医師が判断するものとし、投与回数に制限は設けません。

- 1 末梢血の採取
患者様の腕より、注射針を接続した注射器を用い15mL採血します。
- 2 PRP作製
採取した血液を、遠心分離器で遠心しPRPを作製します。
- 3 PRP注射
患部に対して、PRPを注射します。作製したPRP全量の投与を基本としますが、患者様の体格等を考慮しながら投与量を調整します。投与目安量は、膝関節:4mL、肩関節:2mL、股関節:5mL、肘関節:2mL、足関節:2mL、指関節:0.5mL 等です。



- 4 PRP投与後1か月を目安に診察を行い、投与部位の腫脹、発赤の確認により感染、炎症の程度の確認。
- 5 投与後6か月を目安に診察を行い、疼痛評価、機能評価などを行い、有効性の検証。
- 6 再生医療等提供後2年間は、定期的に診察するなど経過の観察。

5. 予想される効果と起こるかもしれない副作用・事象

(1) 予想される効果

自家PRPには成長因子が多く含まれていることから、成長因子の効果により、炎症の緩和、痛みの緩和、関節機能(こわばり等)の改善が促進されることが期待できます。

(2) 起こるかもしれない副作用・事象

PRPの原料には、患者様ご自身の血液を用います。他人の組織を移植する場合に用いる免疫抑制剤を使うことがないため、免疫抑制剤による副作用の心配はありません。ただし、採血のために静脈内に注射針を刺す行為が必要です。採血は約15mLですので、通常の献血量である200mL、あるいは400mLに比べて少量であり、比較的安全性の高い処置だと考えられますが、ごく稀に以下の表1に示す合併症（手術や検査などの後、それがもとになって起こることがある症状）の報告があります。また、PRP治療に関連した偶発症（稀に起こる不都合な症状）や合併症も考えられます。これらの合併症が起きた場合には最善の処置を行います。

また、製造したPRPが規格を満たさない場合や、製造途中で発生した問題により製造が完了しなかった場合など、採血を行ったにもかかわらず、PRP注入ができない場合があることをご理解ください。

表1: 本治療で起こりうる代表的な偶発症・合併症

処置	偶発症・合併症	頻度・対応など
採血	採血に伴う痛み	痛みの感じ方の個人差もありますが、通常の場合、次第に治まります。
	気分不良、吐き気、めまい、失神	0.9% (1/100人) *
	失神に伴う転倒	0.008% (1/12, 500人) *
	皮下出血	0.2% (1/500人) *
	神経損傷 (痛み、しびれ、筋力低下など)	0.01% (1/10, 000人) *
PRP注入	感染	自家PRP調製にあたっては、細菌などの混入を防止する対策を取っていますが、完全に混入が起こらないとはいえないため、注入後は、注意深く観察を行います。感染の症候が認められた場合には、適切な抗生剤などの投与により対応します。
	注入の痛み	投与後には必要に応じ、鎮痛剤を服用していただきます。痛みの感じ方の個人差もありますが、痛みは次第に治まります。
	注入部位の腫れ	注射後3~4日後は、細胞の活発な代謝が行われますので、腫れやかゆみ、赤みや痛みが出るなどがありますが、その後自然に消失していきます。
	手術部位の内出血 (紫色になる)	次第に治まります。

* 献血の同意説明書 (日本赤十字社) より転記

* 患者様に適用される治療の偶発症・合併症などの詳細について質問がある場合は、別途、担当医師・担当スタッフから説明をいたしますので、お問合せ下さい。

6. 本治療法における注意点

- ・ 注射後3～4日後は、細胞の活発な代謝が行われますので、腫れやかゆみ、赤みや痛みが出るなどがありますが、その後自然に消失していきます。
- ・ 痛みを強く感じている間に、安静にし過ぎてしまうと、治療部位が硬くなり長期的な痛みの元になる可能性があります。指示されたりリハビリテーションを行うことが大切です。
- ・ 投与後、数日間は血流の良くなる活動(長時間の入浴、サウナ、運動、飲酒など)を行うことで、治療に伴う痛みが強くなる可能性があります。ただし、この痛みが強くなったからと言って、治療効果に差はありません。
- ・ 関節は細菌に弱いので、清潔に保つよう心掛けて下さい。

7. 他の治療法との比較

PRP以外の治療法として、ステロイド注射や非ステロイド性消炎鎮痛剤などが挙げられます。以下の表は、ステロイド注射、非ステロイド性消炎鎮痛剤をした場合の利益・不利益についての、PRP療法との比較です。

	PRP療法	ステロイド注射	非ステロイド性消炎鎮痛剤
概要	損傷部位に投与することで、患部の疼痛を和らげる効果、また、組織を修復する効果が期待される。	被投与部位に対し強い抗炎症・免疫抑制作用を即効性の作用を示し、痛み改善効果がある。	抗炎症作用を示し、痛みの改善効果がある。
効果持続期間	ステロイド、非ステロイド性消炎鎮痛剤により長期的な疼痛改善効果がある。	即効性はあるが相対的に効果の持続期間は短い。	効果は数時間であるため、持続的な経口投与が必要。
治療後のリスク	注射後に数日程度腫れ等の症状を呈する可能性がある。	継続使用すると、感染症の誘発・骨粗鬆症の増悪・薬剤離脱困難等を引き起こす可能性がある。	胃潰瘍等の胃腸障害、腎機能障害等を引き起こす可能性がある。
品質の安定性	自家PRPは患者さま自身の血液から製造	医薬品として承認されており、品質は安定し	医薬品として承認されており、品質は安定している。

	するため、患者さんごとに品質がばらつく可能性がある。	ている。	
アレルギー反応	自家移植のため、極めて低い。	品質管理された安全性の高いものだが、アレルギー反応などの可能性を完全には否定できない。	品質管理された安全性の高いものだが、アレルギー反応などの可能性を完全には否定できない。

8. 本治療を受けることへの同意

本治療を受けるかどうかは、患者様自身の任意であり、また、患者様は、本治療を受けることを拒否することができます。患者様が、本治療を受けることを拒否することにより患者様に不利益が生じることはありません。もし患者様が本治療を受けることに同意しない場合も、最適と考えられる治療を実施できるように患者様の治療に最善を尽くします。

9. 同意の撤回

本治療を受けることに同意されたあとでも、採血を始めるまでは、いつでも同意を撤回することができます。患者様が、本治療を受けることへの同意を撤回することにより患者様に不利益が生じることはありません。もし患者様が同意を撤回されても、最適と考えられる治療を実施できるように最善を尽くします。

10. 治療費用

- (1) 本治療は、すべて自費診療であり、健康保険を使用することはできません。
- (2) 本治療にかかる費用は、以下のとおりです。なお、費用は、治療に伴う診査、自家PRP調製のための採血にかかる費用、自家PRP調製費用、注入にかかる費用の総額となります。

PRP1回 35,000円(税込)

PRP1回 30,000円(税込)※大学生までの学割

11. 試料等の保存及び廃棄の方法

患者様から採取した血液と作製したPRPは、患者様ご自身の治療のみに使用します。ただし、症例検討や学会発表を目的として、血液やPRPの測定を行い、データを取得することがあります。

血液およびPRPは微量で全量を使用するため、保管はしません。治療に用いない血液またはPRPが生じた場合は、すべてを適切に廃棄します。

12. 健康、遺伝的特徴等に関する重要な知見

本治療は、細胞提供者と再生医療等を受ける者が同一であり、患者様の健康、子孫に受け継がれ得る遺伝的特徴等に関する重要な知見が得られる可能性はありません。

13. 健康被害が発生した際の処置と補償

本治療を原因とした健康被害が発生した場合は、原則患者様負担なしで医療的処置を行います。ただし、患者様が医師の指示に従わなかったことが原因の場合はその限りではありません。補償金など金銭等による補償はありません。[必要に応じて加入している医師賠償責任保険で補償します。]健康被害が発生した際は、当院の相談窓口までご連絡ください。

14. 個人情報の保護について

患者様の個人情報は、当院の個人情報保護規定により保護されます。また、患者様の個人情報は、当院で患者様がお受けになる医療サービス、医療保険事務業務、検体検査の業務委託、紹介元医療機関に対する診療情報の提供、症例に基づく研究（ただし、この場合、お名前など個人を特定する内容はわからないようにします）の目的にのみ利用させていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

15. 特許権、著作権及び経済的利益について

将来的に、本治療を通じて得た情報を基にして研究を行った場合、その成果に対して特許権や著作権などの知的財産権が生じる可能性があります。それらの権利は再生医療等提供機関に帰属し、本治療や関連した新しい治療法をさらに発展させていくために、当院ならびに大学などの研究機関や研究開発企業が積極的に活用して行くことを想定しています。経済的利益が生じる可能性があります。患者様は利益を受ける権利がありません。患者様のご理解とご協力をお願いいたします。

16. 本治療法の審査・届出

自家PRPを用いた治療を当院で行うにあたり、再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づき、以下の再生医療等委員会の意見を聴いた上、再生医療等提供計画を厚生労働大臣に提出しています。なお、当院が再生医療等提供計画の提出を済ませた医療機関であることは、厚生労働省の「e-再生医療」というウェブサイトにも公表されています。

e-再生医療 <https://saiseiiryō.mhlw.go.jp>

名称: JSCSF再生医療等委員会(NA8230002)
連絡先: 一般社団法人日本先進医療臨床研究会内
JSCSF再生医療等委員会・事務局
電話番号 03-5542-1597 FAX番号 03-4333-0803
e-mail rmo@jscsf.net ホームページ <https://jscsf.org/>

17. 当院の連絡先・相談窓口

本治療についての問い合わせ、相談、苦情がある場合は、以下にご連絡ください。

窓口: 富士整形外科病院 相談窓口
メール: info@fujiseikei.com
電話番号: 0545-51-3751

※ 受付時間; 休診日を除く月～土9:00-17:00

同意書

再生医療等名称:

「自家多血小板血漿(Platelet-rich plasma:PRP)を用いた筋肉、腱、靭帯、筋膜の損傷及び慢性炎症の治療(関節腔外に限る)」

私は、上記の治療に関して、医師から十分な説明を受け、質問をする機会も与えられ、その内容に関して理解しました。その上で、本治療を受けることに同意します。

* 説明を理解した項目の□の中に、ご自分でチェック (レ印) を入れてください。なお、この同意書の原本は当院が保管し、患者様には同意書の写しをお渡しします。

(説明事項)

- 1. はじめに
- 2. 本治療の概要
- 3. 本治療の対象者
- 4. 本治療の流れ
- 5. 予想される効果と起こるかもしれない副作用・事象
- 6. 本治療における注意点
- 7. 他の治療法との比較
- 8. 本治療を受けることの同意
- 9. 同意の撤回
- 10. 治療費用
- 11. 試料等の保存及び廃棄の方法
- 12. 健康、遺伝的特徴等に関する重要な知見
- 13. 健康被害が発生した際の処置と補償
- 14. 個人情報の保護について
- 15. 特許権、著作権及び経済的利益について
- 16. 本治療の審査・届出
- 17. 当院の連絡先・相談窓口

同意日: ____年 ____月 ____日

住所: _____

連絡先電話番号: _____

患者様氏名: _____

代諾者氏名: _____ (続柄: _____)

説明日： 年 月 日

説明医師署名： _____

同意撤回書

医師 _____ 殿

再生医療等名称：

「自家多血小板血漿(Platelet-rich plasma:PRP)を用いた筋肉、腱、靭帯、筋膜の損傷及び慢性炎症の治療(関節腔外に限る)」

私は、上記の治療を受けることについて、 年 月 日に同意しましたが、この同意を撤回します。

なお、同意を撤回するまでに発生した治療費その他の費用については私が負担することに異存ありません。

同意撤回年月日 年 月 日

患者様氏名 _____

代諾者氏名： _____ (続柄： _____)